

NEW 2025年1月～ 本格稼働！

生成AIでワンクリック自動作成！ 訪問看護計画書・報告書作成の

時間を **1** **5** に削減

iBowの
AIなら



看護師が計画書・報告書を考える

従来の業務

計画書・報告書作成時間

看護師1人あたりの利用者 14名 × 作成時間 30分 = 7時間/月



生成AIを活用する

iBowのAIなら！

計画書・報告書作成時間

看護師1人あたりの利用者 14名 × 作成時間 6分 = 1.4時間/月



POINT 1

書類作成時間を大きく削減

削減した時間を利用者のケアやより重要な業務に充てられます

POINT 2

利用者に応じて内容を作成

iBowに登録した計画書や看護記録から、一人ひとりの個性を加味した書類を作成できます

POINT 3

書類のベースを自動で作れる

書類内容をゼロから考える必要がなく、看護師が確認・修正するだけで完成することができます

＜算出条件＞

※訪問看護計画書・報告書それぞれ1枚当たりの作成平均所要時間が約15分のところ、「AI訪問看護報告」を用いた平均所要時間は約3分で12分削減。（自社調べ）

※厚生労働省 令和5年度介護サービス施設・事業所調査より全国の訪問看護利用者数は1,111,824人。一般社団法人全国訪問看護事業協会 令和5年度訪問看護ステーション数調査結果より全国の稼働ステーション数は15,697件。1,111,824人÷15,697ステーション＝1ステーション当たりの平均利用者数70.8人。平均利用者数70.8人 ÷ 1事業所当たりの平均看護師数4.8名＝看護師1人当たりの利用者数14人。

※平均看護師数 4.8人

（参考：令和5年度介護事業経営概況調査結果 | 厚生労働省）

▼ 「AI訪問看護計画」「AI訪問看護報告」の詳細についてお気軽にお問い合わせください ▼



0120-49-0333

受付時間 9時～22時(平日18時以降と土日祝は用件受付のみ)

スマホで簡単
資料請求



訪問看護 iBow

編集後記

今年度も「クーレ・クール」28号を無事発行する事ができました。会員の方々が、それぞれの地域で日々活動し、各支部で協力し合っていることで地域へ貢献していること。埼玉の訪問看護ステーションを「より良く」するために、会長はじめ、理事、部会の皆様が奮闘して下さっていること。この広報誌を通じて多くの方へ届くことを願っております。原稿依頼に快く協力下さった皆様に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。今後とも一般社団法人埼玉県訪問看護ステーション協会へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

広報専門部会 一同

一般社団法人埼玉県訪問看護ステーション協会広報誌

第28号

発行／一般社団法人埼玉県訪問看護ステーション協会事務局 〒338-0011
TEL 048-767-7971 FAX 048-767-8696
編集／広報専門部会 発行人／白石 恵子 印刷／前田印刷株式会社

さいたま市中央区新中里3-3-8 埼玉地域看護研修センター内

— 支え合う訪問看護の力 —

クーレ  クール

Coeur et Coeur

クーレ・クールとは “心と心” “支え合う” というフランス語。
地域を支えるあたたかいぬくもりのある広報誌
を目指します。



第28号

一般社団法人
埼玉県訪問看護ステーション
協会広報誌
令和7年4月発行

会員事業所 340
(2025年3月現在)
個人会員 8
合 計 348

E-mail: sai-houkan@themis.ocn.ne.jp

「ごあいさつ」

埼玉県訪問看護ステーション協会 会長 白石 恵子



日頃より当会事業に深いご理解とご協力を頂き、心から感謝いたします。

当会は、2002年に任意団体の連絡協議会として発足、2015年に法人化を行い現在の体制と発展してまいりました。

私自身、2022年7月から会長就任をしておりますが、前会長をはじめ役員、会員の皆様、事務局が地道な活動をされてきたからこそ、一般社団法人埼玉県訪問看護ステーション協会として大きく成長できたと思っております。

さて、埼玉県の訪問看護事業所数は、届出上875事業所（令和6年11月1日現在）となっており、令和5年度より100事業所が増加しています。本年度の訪問看護実態調査から約50%が5-6人の小規模事業所となっており、休廃止事業所も多い状況となっています。持続可能な事業所経営と良質な看護ケアの提供が求められ、利用者 お一人おひとりに寄り添い、支え続ける訪問看護を目指していく必要があると考えております。

令和6年度総会で、当会の活動目標として 1.訪問看護ステーションの質の向上 2.小児・精神・難病等の訪問看護の強化 3.地域特性に応じた多職種連携の充実 4. ICT 活用の促進を図ることを掲げて活動を行っております。

1.訪問看護ステーションの質向上に関しては、育成プログラム、訪問看護管理者研修の充実を図り、従事者のキャリア形成支援のため、2022年より、埼玉県立大学林教授及び役員の方々の皆様のお力を借り、訪問看護キャリアラダーの作成に取り組み、本年度から訪問看護師の生涯学習に向け活用できるようになりました。また、教育ステーション6カ所と協力ステーション4カ所の設置ができ、令和7年度より県内10医療圏域に各1カ所の教育ステーションの設置が目指せる状況となっております。

2.小児・精神・難病等の訪問看護の強化については、小児、精神専門部会で研修企画・運営を行い、従事者の皆様の学びを深め、実践に活用できる研修会を行っております。特に精神専門部会では、著名な先生がとても素晴らしい講義を行って下さり、他県からも数多くの研修参加をいただいておりますので、新たな知識を身に付け、実践に役立てていただく事ができる研修会となっております。

3.地域の特性に応じた多職種連携の充実については、県内10医療圏域で、運営委員の皆様のお力を借り地区活動を行っていただいております。地域内の管理者同士の日頃の悩み、課題等を話す中で、横の連携強化・充実を図っていただける機会になることを願っております。

4. ICT 活用の促進を図るについては、本年度ホームページリニューアルを行い、会員の皆様へのサービス強化を意識した活動に努めたいと思います。

最後に、あらゆる世代への訪問看護ケアの提供ができるようになり30年の節目の年です。2040年に向け、訪問看護が地域における看護の拠点として、すべての人が幸せに生活ができるため力を発揮していきましょう

埼玉県看護功労者知事表彰

白岡訪問看護ステーション 中村 由美子



私は、看護師として埼玉県内では28年間、そのうち白岡訪問看護ステーションでの管理者経験は22年となります。事業を拡大する傍ら、白岡市介護保険事業計画策定への参画等に関わらせていただいております。訪問看護認定看護師取得後は、埼玉県訪問看護ステーション協会の理事として、県の委託事業である新卒・新人訪問看護師育成プログラムや管理者研修の運営及び講師等を努めて参りました。この度は、知事表彰の栄誉を賜り大変光栄なことで、これまでご指導いただいた皆様に深く感謝しております。今後も訪問看護の質的・量的拡大に向けて微力ながら貢献できればと思いますので、ご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本訪問看護財団30周年記念・訪問看護貢献者表彰

はみんぐ訪問看護ステーション 塙 真美子



この度はこのような素晴らしい賞を頂戴いたしました事、誠に光栄に嬉しく思います。私自身が訪問看護に携わり30年、事業所を開設して25年となりました。介護保険という新たな制度の中で訪問看護の活躍の場が増えた時の喜びが、つい先日の事のように感じられます。常に人材不足や時流の波にさらされている訪問看護ですが今後30年を考えると今まで以上に地域連携と創意工夫が必要であるように思います。埼玉県は住みやすい街とされながらも、魅力度は低いと言う不思議な県ですが、訪問看護は断トツ1番になれる事を目指したいですね！これからもよろしくお願いします。

みのり訪問看護ステーション 高橋 リサ子



訪問看護サミット2024開催にて、埼玉県訪問看護ステーション協会より推薦を頂き表彰状を頂きました。一緒に受賞された塙真美子さんは、私が訪問看護ステーションを開設し一年目で、当時埼玉県訪問看護連絡協議会の運営委員の役を頂き、大変お世話になった会長です。塙さんと共に頂けたことをとても光栄に思います。清水嘉与子元環境庁長官、佐藤美穂子前日本訪問看護財団常務理事、坂本すが元日本看護協会会長、福井トシ子前日本看護協会会長に感謝状を贈呈された華やかな場所でこのような表彰状を頂き身が引き締まる思いでした。当訪問看護ステーションも、今年開設20周年を迎えました。記念にこのような機会を頂き心から感謝申し上げます。

埼玉訪問看護相談センター報告

管理者相談と訪問看護相談の委託事業を行っております。

今年度は診療・介護・障害報酬のトリプル改定があり、相談が多く寄せられました。4月から11月までに約1183件となっています。相談内容としては、「PT・OT・STに関する訪問看護費の算定」が多く、次いで公費の併算定、施設への訪問に関する事などとなっています。

ご質問はFAXでも受付しております。HPのFAX相談用紙をご活用ください。
FAX 048 (767) 8696

☆訪問看護相談センター（平日：月～金）
受付時間10時～16時（12時～13時除く）
電話048（767）7972

☆管理者相談窓口（平日：月・水・金のみ）
受付時間10時～16時（12時～13時除く）
電話048（767）7973



特集

今回の特集は、他分野にわたり活動している精神特化の
「訪問看護ステーション りすたーと」の藤田所長へのインタビューと同行訪問です！
精神看護の需要が高まる中、精神特化の訪問看護ステーションが増加しています。
一方で、訪問看護でも精神のイメージに「怖い」「対応方法がわからない」などが
あり精神訪問看護に踏み出せない管理者も多いようです。
今回の特集を日々の看護実践に活かして頂けたら幸いです。



1. 現在のステーションに至るまで

現在は、職員24名、利用者200名超の大規模ステーションですが、ここまでの道のりは苦労も多かったと。大阪から、精神訪問看護が整っていなかった埼玉の地へ…。精神科看護の経験のある看護師も集まらず大変だったと。だからこそ「精神訪問看護の分野をなんとかしなければならぬ」と踏ん張り、今につながっているそうです。



2. りすたーとの訪問看護＝利用者参加型

「訪問看護ステーション りすたーと」ではWRAP（元気回復行動プラン）の視点を看護に取り入れています。1回の訪問は1時間じっくりと向き合い、1日の最大訪問件数は5件としています。お一人おひとりの知恵と経験を活かしながら、その人らしさを大切に関わっています。前回の訪問から今回まで、今回から次回までの計画と評価を利用者と共に行っています。そうすることで夜間の電話も多くないと。自分の人生の主人公である利用者自身の主体的な意思と選択、行動を見守り、応援していくケア。それが看護師自身の成長にもつながっているそうです。

3. 藤田所長が大事にしていること

- ・働く環境はスタッフ同士がお互いに補い合うこと
それぞれのスタッフに強みも弱みもあるが、お互いに補い合うことで組織が強くなっている
- ・スタッフへ日常の何気ない声かけ
管理者としてスタッフの少しの変化に気づくこと、日常の何気ない声掛けから、スタッフからの絶対的信頼を構築することが働きやすい職場となっている
- ・事業所のビジョンの理解と共有
事業所のビジョンを理解してもらい共有することで、スタッフ個々の目標も明確になり、成長できている。それが最終的には事業所の成長につながっている

4. りすたーと農業部

精神障害者の方も「自分はこの世に生まれ、ここに存在している価値がある」と自信をもってほしい。症状管理だけでは生活や人生は成り立たない。自分で稼ぎ、自分の行動に責任を持ち、自分の人生に価値を感じて生活ができる。そんな場所をつくるために、現在は訪問看護のみに捉われず、他の事業も展開しています。

その一つに「りすたーと農業部」があります。

- ・精神障害者の皆さんが社会参加するための働く場所
- ・「働く」を通して「自分らしさを見つけていく」ことに重きをおいている
- ・活動は、完全水耕栽培のスプラウトにんにくの生産や、スプラウトにんにくを使用した加工品（にんにく味噌）販売を行っている
- ・「作る人、食べる人、多くの人の笑顔のために」をモットーにしている



訪問看護ステーション りすたーと



5. インタビューの感想

藤田所長のインタビューを通して、利用者の人生を背負うことはできないけれども、利用者さんが生きていく上での存在価値の場所をつくるために訪問看護のみに捉われず多事業を運営していることに驚きました。藤田所長は人との「出会い」「ご縁」をすごく大切にしています。人望が厚く、りすたーとの看護を少し覗いた半日でしたが、藤田所長の人間性がにじみ出ているステーションでした。又、管理者としてのスタッフへの考え方など聞かせていただき私にとっても学び多い時間でした。農業部目玉の「スプラウトにんにく」「にんにく味噌」を食べましたが、最高に美味しかったです！！

同行訪問での学び

瀧ノ上さん（看護師）すげー！！

訪問看護ステーションりすたーとさんに同行訪問させていただきました。利用者さんからの絶対的信頼。こんなにも最強の担当なら・・・と利用者さんが変わるたびに思いました。その人の人生を動かさない・その人とどう向き合うか気を付けながら介入。身体看護と違い、答えがありません。看護師が介入することで成功体験ができたり、利用者さんの人生を歩む手助けをする。利用者さんは家族・友達に否定されてこられた方もいます。あきらめたり、人のせいにしながら生活してきた方もいます。利用者さんには、「この看護師になら何と言っても受け入れてくれる」という安心感がにじみ出ていました。りすたーと最高！！



利用者様の声 その後



27号に利用者様の声を寄せてくださったS様のその後を紹介させていただきます。担当されていたステーションの閉鎖に伴い、昨年4月から当ステーションで引き継ぎ訪問しています。何と昨年11月に町営住宅に引っ越され、目標であった一人暮らしを始められました。重度生活介護で24時間ヘルパーの支援と見守りは受けつつも、時には食べたいメニューのレシピを自ら指示して作ってもらったり、アマゾンでの買い物も自分でポチポチ。スマホの操作も驚くほど速い！見えてる人より早いじゃんと思うほど…いつも笑顔で前向きなSさん。時には忙しそうにしているNsに「がんばって！」と励ましの声をかけ、元気をくださいます。先天性の障害に加え、医療事故で更に障害を負ってしまった心身の苦痛にも負けず前向きに生きている姿にいつも感動しながら訪問しています。これからもS様らしく自身の人生を自分の力で歩み抜いていかれることと思います。そんな利用者様と出会えたことに感謝しながら、私たちも自身の人生を楽しみながら訪問看護師として歩み続けていけたらと思います。
(ホームズ訪問看護ステーション寄居 小磯景子)

利用者さまの声

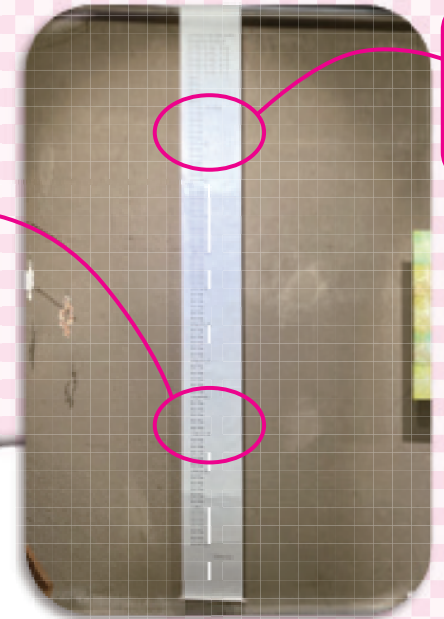


プロフィール

S. I 様

昭和43年7月生まれ。女子美術短期大学で油画を専攻。作品展を共催する「臨床美術・彩球」の立ち上げメンバーの一人で臨床美術士。2015年にALS発症し、2016年に気管切開し人工呼吸器装着となる。現在は訪問診療、訪問看護、訪問ヘルパーを活用し、自宅での療養をしている。

詩は「たくさん たくさん」



たくさん
たくさん
たくさん
ありがとう

たくさん
たくさん
たくさん
さみしかった

作品へのご本人の思い

- 人に楽しんでもらうことが大好きで、たくさんの人と一緒にたくさん絵を描いてきました。
- 身体が自由がきかなくなっても楽しみたい、楽しんでもらいたいという気持ちは変わらず、みんなと一緒にたくさん作品を作り出しました。
- 写真にある大きな絵は、どうやって描いたかは秘密です。どうやって描いたのかそれぞれ想像してもらおうのもこの作品の楽しみ方です。

絵のタイトルは
「みんなにいいのかな？」



S様との関わりを通して

S様は、いつも私たちの訪問を温かく迎えてくださり感謝しております。多くの事業所から手厚いサポートを受けておられるS様は、周囲の方々から愛されている方だと日々実感しています。そのようなS様のケアに携わることができ、私たち看護師一同嬉しく思っております。私たちの役割は、S様に快適な日々を過ごしていただくことです。具体的には、人工呼吸器の管理や皮膚ケア、排泄状況の確認など、細やかなサポートを行っています。ご自身の思いを表現するかたちが変わり、コミュニケーションを取れるスタッフが限られているからこそ、S様の小さなサインも見逃さないよう細心の注意を払っています。看護師同士や担当医との連携を密にし、日頃の状態を細かく把握することで、日々の微細な変化にいち早く気づけるよう心がけています。また、S様とご家族様が安心して療養生活を送れるよう、災害時の対策やレスパイト入院の連携など、あらゆる状況を想定したサポート体制を構築し、万全の態勢でS様をお支えています。これからも、S様が穏やかな日々を過ごせるよう、専門的な知識と技術を活かしながら、心のこもったケアを提供してまいります。これからも宜しくお願いいたします。

部 会 報 告

教育専門部会

訪問看護リハビリステーション あんど悠すまいる 高谷 美香

教育専門部会では2つの研修を企画・運営しています。
1つ目は新人の育成を目的とした「新卒者等訪問看護師育成プログラム」です。全7回で構成され、訪問看護師として独り立ちできるよう知識や技術の取得を目指しています。受講生の教育担当者に向けてもプログラム内容をお伝えし、成長の過程をみんなで見守っています。
2つ目は「訪問看護管理者研修」です。

こちらは今年から県委託事業として全11講座で構成されています。集まりやすいように18時開始でzoom開催としたところ全受講生は30名を超える大勢の方にご参加いただいています。
理事3名と各支部から選出された部会員8名で引き続き盛り立てていきたいと思っています。



ICT部会

ICT部会は協会HPのリニューアルに携わり、業者へのアイデアや希望の伝達、調整を行っています。また、理事会や運営委員会において、ICTを活用した業務の効率化を進めています。研修会開催時には会場とWEBの併用に関する運営サポートも実施。今後は災害時におけるICT活用についての検討を進め、協会全体のICT戦略の強化を図っています。



精神訪問看護専門部会

訪問看護ステーションりすたーと 部会長 藤田 茂治
(埼玉県訪問看護ステーション協会副会長・理事)

埼玉県の精神訪問看護の質の向上と強化を目的として2019年度から新設されました。

毎年年に二回（6月・1月）に専門性の高い精神科訪問看護研修会3日間シリーズ（精神科訪問看護算定要件を満たす研修）を開催しております。精神科訪問看護においては全国のとても有名な講師陣を集めており、この講師陣が一同に集まる研修会は全国でも埼玉県だけです。とても貴重な研修会を行っております。

算定要件研修を修了した人でも、精神科特化型のステーションでも、参加して損はありません。必ず学びになることをお約束します。

また、それぞれの訪問看護ステーションへ精神科に特化した精神科経験豊富な訪問看護師が直接出向いてお困りごとの相談に乗る「精神科訪問看護コンサルテーション事業」も小規模ですが始めています。もしご希望がありましたら、部会長の藤田までご連絡ください。



小児専門部会

小児専門部会は6名の部会員と担当理事で今年度の活動を行っています。「はじめよう小児訪問看護」と題した年度末の研修会を実施するための会議を年5回行いました。令和5年度アンケートでは小児訪問看護に対応している事業所が40%程度。なんで小児訪問看護に取り組みづらいのか？小児は加算も上乘せされているのに！やっぱり小児って最初は怖いよね！研修会参加人数少ないと講師の先生に悪いよね…など日頃の熱い思いや研修会への思いを語り合いました。「埼玉県には素敵な訪問看護管理者さんがたくさんいるな」そして「小児訪問看護は本音で語り合える連携が大事なな！」と思いながらの楽しい部会の時間を過ごしました。写真はZOOM会議の風景です。



災害リスク部会

今年は新たな取り組みとして、災害伝言ダイヤルを利用者様と共に実際に使用し、災害時の情報共有手段を確認する訓練を実施しました。また、11月には『能登の震災の経験から学ぶ災害への備え』と題し、石川県の訪問看護ステーションの講師を招いた講演会を開催。能登震災の実体験を基に、災害への備えの重要性を学びました。これにより、利用者様が災害時の対応を理解し、意識を深めることを目指しています。今後も地域と連携し、安心できる看護体制の構築に努めてまいります。



広報専門部会

広報専門部会では、毎年「Coeur et Coeur」の発行をしています。名称の通り、地域を支えるぬくもりのある広報誌を目指しています。今年度は精神特化訪問看護「訪問看護ステーションりすたーと」の特集を組ませていただきました。昨今、需要も多くなっていることと、訪問看護だけでなく多事業を運営している、りすたーと所長へのインタビューとスタッフの同行訪問をしました。

又、それぞれの担当者からの原稿をいただき、埼玉県訪問看護ステーション協会の活動・活躍を伝えています。



理事会・運営委員会報告

埼玉県訪問看護ステーション協会 副会長 中村あつみ

理事会では、2024年度も協会の事業運営が円滑に進むことと、会員皆様の日々の業務の助けになるような情報の提供、共有に心がけて参りました。

運営会議では、各支部の活動状況や会員からの相談内容などを共有するとともに、問題解決につながる情報の提供なども行ってまいりました。

2025年問題が現実のものとなる本年、私たちは更に大きな課題に直面することとなると思います。今まで以上に一つ一つの課題に真摯に取り組み、対応できるようにしていきたいと思います。

会員相互の団結と協力で、今年度の様々に課題を乗り越えて参りたいと思いますので、ご協力をよろしくお願い致します。



支部便り

第8支部(草加市・八潮市・三郷市・吉川市・越谷市・春日部市) 加入ステーション数 55

訪問看護ステーションルピナス草加 大島 祐也

コロナ前は対面での研修会が多かったですが、今は年1回対面で行っています。越谷サンシティホールで対面支部会を行い、顔の見える関係作り、支部でのBCP作りを行っています。吉川市でなますの養殖が行われたり、数々のなますグッズも生み出され、「なます」にちなんださまざまな事業が行われています。吉川駅のロータリーには、そんな「なますの里吉川」を象徴する「金色のなますモニュメント」があり、訪れた方を出迎えてくれます。八潮市では毎年7月に「大瀬浅間・氷川神社」で行われる「大瀬の獅子舞」は350年以上前から行われてきました。笛の音に合わせて獅子が舞い、訪れる人々を魅了します。1991(平成3)年には埼玉県南部を代表する獅子舞として埼玉県の無形民俗文化財にも指定されています。越谷市では新越谷駅周辺で8月末に開催される「南越谷阿波踊り」は『日本三大阿波踊り』に数えられる大きなイベントがあります。年々参加連も増え、徳島県などからも招待連が参加し、県内だけでなく県外からも毎年数十万人の観客が訪れ、夏の終わりのお祭りとして大きな盛り上がりを見せています。お祭り中は多くの人で溢れますが、イベント中の環境管理や終了後の清掃も徹底して行われ、清潔な街のイメージを損なわないよう配慮されています。各地域で色々なお祭りが開催されているため、ぜひ一度足運んでみてください。



第6支部

第3支部

第7支部

第8支部

第9支部

第10支部

第9支部(朝霞市・志木市・新座市・和光市・富士見市・ふじみ野市・三芳町) 加入ステーション数 17

生協ふじみ野ケアセンター 神田 あゆみ

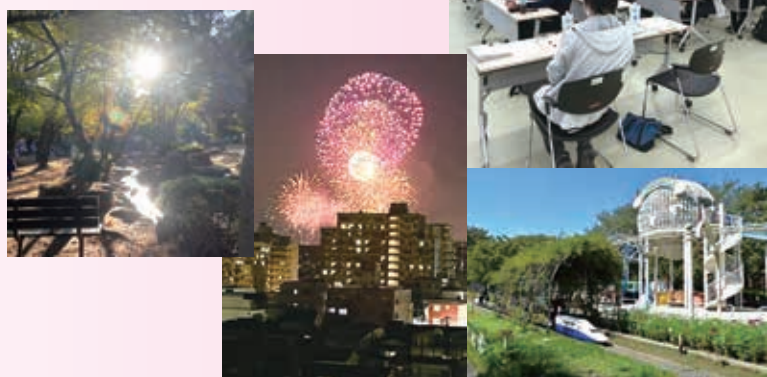
第9支部は、東武沿線上の6市1町にまたがる広いエリアの地域になっています。最近ステーションも増え、地域看護の力がますます期待されている地域となっています。支部会は集合で行っています。毎回一桁の参加になっていますがそれぞれのステーションでの困りごとなどを共有しながら有意義な会になっています。



第10支部(川口市・戸田市・蕨市) 加入ステーション数 47

訪問看護リハビリステーション ゆめみらい戸田 稲屋 涼子

荒川を隔てて、東京都と隣接している地域で都心へのアクセスが良好です。また、大小多数の公園があり、子育てしやすい環境も整っています。川口市は、さいたま市に次いで人口が多い街、蕨市は日本で最も小さい市で人口密度が高い街、戸田市は平均年齢42歳と若い街です。夏に開催されます戸田橋花火大会は、いたばし花火大会との合同開催で、約15,000発の花火が夜空を彩る大規模なイベントになっています。



一般社団法人
埼玉県訪問看護ステーション協会

ホームページ リニューアルしました。ご活用ください。
<https://sai-houkan.com>



転送録 訪問看護の現場で選ばれてます!

医療関連
500
ユーザー突破!!

インターネットがあれば使える!クラウド型電話転送サービス「転送録」が電話業務の課題を解決します!

毎日行う固定電話の
転送切替作業がストレス



「電話転送切替」で自動化OK!
設定ミス防止でストレスフリー

毎日変わるオンコール担当の
電話運用が負担



「電話転送切替」で自動化OK!
運用の負担から解放

スタッフを登録する
転送先が足りない



「転送先増設」で増設OK!
曜日ローテーションなど自由度アップ

オンコール現場の電話転送業務をラクにする、多様なサービスがあります、ぜひご相談ください!



株式会社ワイドテック
「転送録」お客様相談センター

03-5829-4886

Smith+Nephew

在宅褥瘡セミナー開催中!
お申込みはこちらから



東洋羽毛 睡眠セミナー無料サービスのご案内

よく眠った人には、かなわない。

睡眠セミナー講師を無料で派遣いたします

東洋羽毛では、「睡眠健康指導士」の資格を有した社員が講師を務める充実したセミナーをご用意しています。正しい情報を得て睡眠習慣を見直し、イキイキと健康的な毎日を歩むお手伝いをさせていただければ幸いです。
*オンラインセミナーの開催も承ります。

睡眠セミナー講師は状況に応じて感染予防対策を実施しています。

《お役に立てる主な研修》

医療安全対策研修
学校保健委員会

高齢者の睡眠ケア

*他、施設内研修などご依頼承ります
(事前にお打ち合わせにお伺いする事も可能です)

◆セミナーに関しましては、二次元コードより
お問い合わせください。随時よりご連絡させていただきます。
<https://www.toyoumo.co.jp/seminar>



東洋羽毛北関東販売株式会社
〒362-0017 埼玉県上尾市二ツ宮963-3

埼玉営業所
0120-223-062

